

【旧約聖書日課】レビ記 25章39～46節

³⁹もし同胞が貧しく、あなたに身売りしたならば、その人をあなたの奴隷として働かせてはならない。⁴⁰雇い人が滞在者として共に住ませ、ヨベルの年まであなたのもで働かせよ。⁴¹その時が来れば、その人もその子供も、あなたのもを離れて、家族のもとに帰り、先祖伝来の所有地の返却を受けることができる。⁴²エジプトの国からわたしが導き出した者は皆、わたしの奴隷である。彼らは奴隷として売られてはならない。⁴³あなたは彼らを過酷に踏みにじってはならない。あなたの神を畏れなさい。⁴⁴しかし、あなたの男女の奴隷が、周辺の国々から得た者である場合は、それを奴隷として買うことができる。⁴⁵あなたたちのもつに宿る滞在者の子供や、この国で彼らに生まれた家族を奴隷として買い、それを財産とすることもできる。⁴⁶彼らをあなたの息子の代まで財産として受け継がせ、永久に奴隷として働かせることもできる。しかし、あなたたちの同胞であるイスラエルの人々を、互いに過酷に踏みにじってはならない。

【使徒書日課】フィレモンへの手紙 1～25節

¹キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから、わたしたちの愛する協力者フィレモン、²姉妹アフィア、わたしたちの戦友アルキボ、ならびにあなたの家にある教会へ。³わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

⁴わたしは、祈りの度に、あなたのことを思い起こして、いつもわたしの神に感謝しています。⁵というのは、主イエスに対するあなたの信仰と、聖なる者たち一同に対するあなたの愛について聞いているからです。⁶わたしたちの間でキリストのためになされているすべての善いことを、あなたが知り、あなたの信仰の交わりが活発になるようにと祈っています。⁷兄弟よ、わたしはあなたの愛から大きな喜びと慰めを得ました。聖なる者たちの心があなたのお陰で元気づけられたからです。

⁸それで、わたしは、あなたのなすべきことを、キリストの名によって遠慮なく命じてもよいのですが、⁹むしろ愛に訴えてお願いします、年老いて、今はまた、キリスト・イエスの囚人となっている、このパウロが。¹⁰監禁中にもうけたわたしの子オネシモのことで、頼みがあるのです。¹¹彼は、以前はあなたにとって役に立たない者でしたが、今は、あなたにもわたしにも役立つ者となっています。¹²わたしの心であるオネシモを、あなたのもとに送り帰します。¹³本当は、わたしのもとに引き止めて、福音のゆえに監禁されている間、あなたの代わりに仕えてもらってもよいと思ったのですが、¹⁴あなたの承諾なしには何もしたくあ

りません。それは、あなたのせっかくの善い行いが、強いられたかたちでなく、自発的になされるように思うからです。¹⁵恐らく彼がしばらくあなたのもとから引き離されていたのは、あなたが彼をいつまでも自分のもとに置くためであったかもしれません。¹⁶その場合、もはや奴隷としてではなく、奴隷以上の者、つまり愛する兄弟としてです。オネシモは特にわたしにとってそうですが、あなたにとってはなおさらのこと、一人の人間としても、主を信じる者としても、愛する兄弟であるはずです。¹⁷だから、わたしを仲間と見なしてくれるのでしたら、オネシモをわたしと思って迎え入れてください。¹⁸彼があなたに何か損害を与えたり、負債を負ったりしていたら、それはわたしの借りにしておいてください。¹⁹わたしパウロが自筆で書いています。わたしが自分で支払いましょう。あなたがあなた自身を、わたしに負っていることは、よいとしましょう。²⁰そうです。兄弟よ、主によって、あなたから喜ばせてもらいたい。キリストによって、わたしの心を元気づけてください。²¹あなたが聞き入れてくれると信じて、この手紙を書いています。わたしが言う以上のことさえもしてくれるでしょう。²²ついでに、わたしのため宿泊の用意を頼みます。あなたがたの祈りによって、そちらに行かせていただけるように希望しているからです。

²³キリスト・イエスのゆえにわたしと共に捕らわれている、エパfrasがよろしくと言っています。²⁴わたしの協力者たち、マルコ、アリストアルコ、デマス、ルカからもよろしくとのことです。²⁵主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

説教「神の僕であること」 神学生 榊原かをる

パウロは、フィレモンという兄弟を与えられたことを神に感謝しています。フィレモンが主イエスを通して与えられた彼の兄弟たちを愛し、彼らが互いに愛し合うものであることを喜びます。兄弟たちを力づけるフィレモンの善き行いを、重ねて賞賛しています。

パウロは、監禁中に出会ったフィレモンの奴隷オネシモについて、フィレモンに頼みごとをします。オネシモは、パウロによって回心をして、かつてのフィレモンがそうであったように、パウロにとって役に立つ助け手となっていました。パウロは、オネシモを、監禁の中で自分がもうけた子供、フィレモンは監禁される前にもうけた子供だと言います。

しかし、現実にはオネシモはフィレモンの奴隷です。パウロはこの世の身分である主従関係は、神の赦しのもとにあるのだから、そのままの身分でおり、奴隷はキリストに仕えるように主人に仕えなさい、と説きます。だから、パウロは、所有者フィレモンの承諾無くして、何もしたくないのです。しかしオネシモはすでにパウロにとって愛する兄弟であり、パウロを通して、キリストによってフィレモンとオネシモは兄弟なのです。フィレモン自身が、オネシモを兄弟として、迎えるかどうか決めるのです。パウロはただ、あなたのところにお返しするオネシモを、私と思って迎え入れて欲しい、この世のものに捉われず、神

の民としてオネシモを迎え入れて欲しいというのです。

実際、パウロは丁寧でありながら強引です。フィレモンはパウロを通して主に救われたという事実を負い、オネシモは今役立っているのに、損害を与えた主人のもとに帰ることになり、パウロ自身は、オネシモという働き手を失い、更に彼がフィレモンに与えてきた負債を負う。パウロは、それぞれが自身の不利益に甘んじつつ、主にあるよろこびを目指すこと、そしてフィレモンによって信仰の交わりが、さらに活気付くことを求めます。この手紙と共に送り返されたオネシモ。オネシモの所有者であるフィレモンはどう決断するだろうか。全てを神の御心として、パウロは待っているのです。

当時のギリシャ・ローマ文化においては、奴隷とは、自由な市民に対する社会的身分を指し示すものでした。生来の身分が奴隷の者、様々な経済的事情から奴隷に身を落とす者、自由市民と奴隷の間のような解放奴隷もいました。奴隷は、社会制度に組み込まれていたのです。

その後の時代は、人道上奴隷制度は無くなりました。しかし、奴隷という言葉はなくとも、苦界に身を沈める女性、結婚の名の下に売られる女の子、養子として売られる子供、搾取される労働者、強制労働が課せられる民族など、イデオロギーが、慣習が、経済が、社会における弱者を虐げてきた歴史が今も続いています。私たちは生きている限り、社会の制度に組み込まれています。ある政治家が言いました「この世には、使うものと使われるものしかないんですよ」。現実の社会制度に左右されない、縛られない、それが神の民としての共同体なのです。

モーセは、イスラエルの民は、彼らを踏み躪るファラオのもと、エジプトから導き出された神の奴隷であると告げました。神と人間との関係は、神への服従と忠誠と献身によって、奴隷に喩えられ、旧約聖書ユダヤ教において、唯一の主である神によって選ばれて仕える奴隷であることは、荣誉でした。しかしイスラエルの人々はエジプトを出てから、何度も罪に陥り、神に背き、モーセが彼らを神に取りなしてきたのです。彼らが淨い神と共にあるために、神からは様々な掟が示されていました。

土地と子孫繁栄は、アブラハムとイサクとヤコブの神が約束された祝福でした。しかし旧聖書の中の多くの戦さでは、領土を失い、血筋は滅亡の危機に立たされた人々がいました。数多の民族の血が流され、征服され生き残った民は、戦利品として家畜同様の奴隷とされたのです。そして一つの民族の中においても、貧しさゆえに土地を売り、身売りをし、同胞が奴隷とされました。

しかし神の恵は、イスラエルの民に与えられており、イスラエルの民は、全て神の奴隷であることを思い出さねばなりません。神は、神の奴隷が、互いを所有するものとして売買することを禁じました。イスラエル人同士がファラオのように過酷に踏み躪らうことを、神は繰り返し禁じたのです。弱いものも強いものも、共に神がファラオから解放した、ただ神を主とする奴隷だからです。神によってエジプトから導き出された様々な人々が、

民族の血筋を超えたイスラエルの 共同体として、神の恵の契約の中に入れられているのです。

現実には、イスラエルの地は資源に乏しく、経済的な困窮があったでしょう。しかし神は、困窮する同胞を、奴隷にはせず、雇人か滞在者として債権者と共に住ませ、働かせよ、と命じたのです。恵の民、イスラエルは神のもの、先祖伝来の祝福であるイスラエルの土地は、神から与えられた恵の権限に過ぎません。主の恵みはその民を普く守られます。

神が与えられた掟の一つ、ヨベルの年は、主がご自身の土地に定められた安息年、すなわち7年毎に農作物を作らない年が7回巡る50年目に聖別されました。ヨベルの年、イスラエルの民は解放され自分の所有していた土地へと、元に戻されました。困窮の果て、土地を抵当に入れる時は、次のヨベルの年までを基準として計算され、売り手も買い手も互いに不正な利益を得ることは禁じられました。イスラエルは神を畏れる者、共に神の奴隷であり、主である神の土地の管理人に過ぎないのだから、互いに欺いて損害を与えることこそは、神との関係を辱めることです。ヨベルの年に地上の富の偏りが解消され、すべてのイスラエル人が主である神の奴隷であることを思い起こします。神への服従が、互いを顧み、誠実であれという倫理の根拠なのです。

歴史の背後におられる神の恵みが全てに先行し、そして全ては神のもとに神の秩序に戻される、ユダヤの時代のヨベルの年は、私たちにそのことを知らしめるのです。

パウロはフィレモンを信じています。ヨベルの年を思い起こしてもらいたい。今や、キリストを通して、奴隷であるオネシモも、フィレモンも神の僕となっています。主を信じて仕える僕として、一人の人間として、互いに愛する兄弟であるのですから、過酷に踏み躪ってはいけません。奴隷の身分にあっても、キリストにあっては自由人であり、たとえ自由人であったとしても、キリストの奴隷なのです。自由人フィレモンは、神という主人を天に持ち、彼もまたキリストの奴隷です。パウロはオネシモをフィレモンの元に戻す。神の土地はその権限のうちに戻される。キリストにおいて、ヨベルの年が始まります。

ヨベルの年の解放について、歴史的には定かではありません。1世紀頃のユダヤ教のラビは、ヨベルの年を神の恵みの象徴として考え、新約聖書では、ヨベルの年を「主の恵みの年」としています。イエス様は、ガリラヤで伝道を始められたとき、安息日の故郷のナザレの会堂で、聖書の朗読をされました。イエス様が霊に導かれ、神の手によって開かれたのが、主の恵みの年を告げるためにご自身が遣わされたという、イザヤ書61章1節から2節でした。

私たちは神が主であることを知り、互いに僕であることを思い起こします。主イエス・キリストのゆえに、私たちはみことばに聴き、兄弟と共に祈りつつ、主が悦ばれることをなす。社会の制度に縛られない神の共同体にあって、主のみめぐみに従い、主の僕としてなすべきことをなすだけなのです。